

光

三年 画数 6
筆順 一 ヷ 光
オン コウ
クン ひかり・ひかる

成り立ち



↓火 ↓火之 ↓火之 ↓光

「火」という字のへんかした「光」と、「人」のすたをあらわした「儿」とを組み合わせてつくった字で、「人が火であたりを『てらす』こと」をあらわしたものです。

「てらす」といういみの字ですから、「かがやく」とか「ひかる」といういみにもつかわれます。

使い方

▽北国は、日の出ている時間がすくなくばかりか、日光がよわいので、よく日光浴をしている光景を見かけます。

熟語例

- ▽日光(日の光。太陽が出す光線)
- ▽日光浴(日の光を浴びること。けんこうのもくてきではだかになって太陽の光線をからだに浴びること。)
- ▽光線(「光の線」といういみのことば。光は直線をえがいてすすむので「光線」といいます。「光」のことです。)
- ▽光景(「光のようなつくしい景色」といういみのことばですが、たんに「目につるようす」のいみにつかわれます。)
- ▽光栄(光りかがやくような栄誉。たいへんな名譽のことです。)
- ▽光陰矢の如し(光陰は「月日の光」のことですが、月日、つまり「とき」のいみです。「とき」のたつのは矢のようにはやいものだ」といういみをあらわしたことばです。)

考

三年 画数 6
筆順 + 考 考
オン コウ
クン かんがえる

成り立ち



↓老 ↓考 ↓考 ↓考

もとの字は、「老(年よりのこと)」と「巧み(じょうずなこと)」のいみの「考」とを組み合わせてつくった字でした。「参照「老(年45)」」

「老人(年より)」はからだがおとろえて、なんでもうまくできなくなりますが、ただ「かんがえ」だけは、年のこうでわかいいものよりも「巧み」です。それで、年よりの巧みな「かんがえ」ということばをあらわしたものです。

使い方

- ▽さんすうのもんだいをとくとき、あわててこたえをまちがえてしまいました。先生が「よく考えてから、ゆっくりけいさんするんだよ」とおっしゃいました。
- ▽ぼくは、いろいろなことを考えます。「ありは、どうやってえさをみつけるんだろう」「犬はうれいしときに、しっぽをふるのに、ねこがしっぽをふるのは、おこったときや、えものをねらうときだ。どうして犬とねこでは、ちがうんだろう」などです。いろいろと考えるのはたのしいものです。

熟語例

- ▽思考(「考え」の、すこしむずかしい、いいかたです。「思考することは、たいせつなことである」などといえます。)
- ▽熟考(よくよく、考えること。「熟考のすえ、けつろんを下した」などといえます。)
- ▽愚考(愚かな考え。おもに、じぶんの考えのことを、けんをんしていうときに、つかいます。あらたまつたつかいかたです。「そんなことは、なざるべきではない」と、愚考いたします」などというふうです。)